乗円寺 寺報

2025年 1月
年始号
寺報から訊く 寺報No40

新年あけまして おめでとうございます。 今年もよろしくお願いします。

昨年もありがとうございました。今年も良き年となりますよう、心から念じ申し上げます。

昨年は、11月頃から風邪をひかれている方、体調が悪い方が多くいたように感じました。雪降る寒い季節となりますが、お互いに十分注意しながら、元気に頑張っていきましょう。

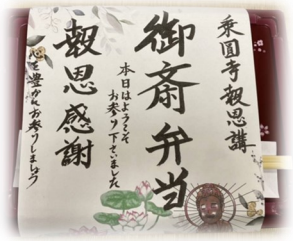
裏面には、昨年の報恩講 法話レポート有！

●令和五年 報恩講・永代経勤め報告●

昨年の報恩講はコロナ前と同様の二日間で、座数（御参りの数）・法話も元の形に戻し、多くの僧侶方と共に、大きな声を出してお参りさせていただきました。両日、たくさんの方にお参りいただいたこと感謝しております。僧侶方の声、皆さんと一緒にお参りした正信偈の声で、平時に戻ってきたなと実感しました。一緒に声を出すということはいいことだなと感じました。

法話でお話いただいた、高科さん、定舎さんには楽しく、深いお話をいただきました。毎年魅力ある先生にお話いただいております。またぜひお参り下さい。報恩講執行にあたり、ご協力いただいた方、本当にありがとうございました。

御斎をお寺で食べた方には小豆汁も！次回はぜひ、ご賞味下さい！



●ユーチューブ 真宗のなぜなぜチャンネルの動画更新 ～お内仏の荘厳編～●

以前ご案内したユーチューブ
真宗なぜなぜチャンネルですが
新しい動画が更新されました。
お内仏（御仏壇）にかかわる内容となっております。ぜひご覧下さい。
スマホで、QRコードを読み込むと動画を見ることが出来ます。

①お内仏の基本について
②仏壇に水を供えるのか？
③お内仏のお花について
④お焼香について
⑤鶴亀の燭台について
⑥お供えものとまとめ

住職の独り言 ～佛様との生活をはじめます～

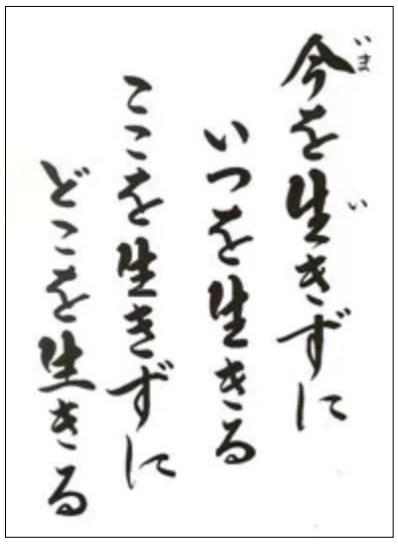
昨年、知り合いでもあった、三十六歳のお母さんが急な病気で亡くなりました。直前まで元気で、会社の同僚の方も驚くほど急なことでした。この方は小学三年生の息子さんを一人で育てておられました。「無常の風（風が咲いている花を散らすように、人の命もいつ果てるのか予測がつかないこと）は時を選ばず」と言いますが、このお子さんのことを想うと、なんとも言えない気持ちになります。大切な方を亡くした時、「なんでこの人が」「なんのために生まれてきたのか」「あの人は何処にいったのか」とお話される方もいます。そのたびに私も考えさせられます。気持ちを整理し、答えを見つけたいのが人間ですが、その答えはなかなか見つかりません。悲しみの重さは、いただいたもの、御恩の大きさとして、それぞれが大切にしていくべきものだと思います。

昔の映画ですが、伊丹十三監督の「お葬式」という映画があります。お葬式を迎えることになった家族のドタバタした様子をコメディで描いた作品です。この映画の最後に、菅井きんさんが演じる妻が喪主として挨拶します。その挨拶の中で、**「佛となった、この人との生活をはじめます」**と話をされるシーンがあります。死んで終わりというのではなく、佛様の導きにより、お浄土で心清らかに暮らす諸仏（佛様や亡くなった方など、私に先立って仏縁を作ってくれた無数の佛）となった、亡き人の願いを聞いて生活していくという決意の言葉であり、正しいお参りの姿勢だと思います。

浄土真宗のお参りの時には、必ず中心に御本尊（佛様である阿弥陀如来）、南無阿弥陀仏（お念仏）があります。先人たちは、苦しいとき、悲しいとき、またどんなときも、御本尊とお念仏を心の依り処としてきました。先人たちの智慧をいただき、南無阿弥陀仏を唱え、苦しみも悲しみも、共に歩み、生きる力としてきたのだと思います。佛様との生活とは、大きな心で自分がいただいているご縁を見つめ、佛様、亡くなった方の願い、想いを心において生活するということです。

お母さんを亡くした小学三年生の少年には、佛様となったお母さんとの生活をこれから大切にしてほしいと思います。大変なこともあると思うけれど、お母さんの願いを受け止め、今をしっかり生きてほしい。関わってあげることは出来ないけれど、必ず強い人間になると心の底から願うばかりです。

佛教の本も書いていらっしゃる大神信章さんの言葉です。法語カレンダーにもなりました。



人は過去のこと、先の不安を考え悩んでしまいますが、その前に精一杯今を生きているかという投げかけのメッセージだと思います。世の中には生きたくても生きることが出来ない方もおいでます。そんな方がいる中で、今いのちをもらっている私たちは今を精一杯、丁寧に生きていると言えるでしょうか。私達もこの言葉の投げかけを、心にしっかり受け止めながら、佛様との生活を大切にし、今年も過ごしてまいりましょう。（住職）

発行所：乗円寺 金沢市石引1丁目4-20 TEL076-221-3421 Fax076-221-3449 E-mail:info@jouenji.net 印刷協力：川場印刷
ご要望、ご感想はお気軽にお問合せください。寺報、発送希望がございましたらお気軽に。 乗円寺 ホームページにも寺報原稿有！「乗円寺 金沢市」で検索！！

令和５年度
報恩講レポート！

十月四日（水）報恩講
「うば捨て山」から気づく仏の智慧

高科　修　先生

報恩講　特別法話一部　抜粋版

ここに知恵という言葉があります。そして知恵という言葉を事典で、検索してみると、この知恵と、この智慧が出てまいります。書いてあります。一般的にこの知恵を、人の知恵と申します。そしてこの智慧を、仏の智慧というふうに、広辞苑の辞典でも書いてあります。ほう、そうか。でも、ほうそうかと、思うだけで、これが一体なんのことか一つも分からん。そして私は、この知恵とこの智慧は、実はイコールだと思うのです。この知恵がこの智慧に、変わる瞬間があるんです。

今日は知恵と智慧、そして人の知恵が仏に変わる、その変わる瞬間を、お話しいたします。そしてこの変わる瞬間が分かれば、年を取っていくということがどういうことか、皆さん今日は、持って帰っていただきます。しばらくこのお話に、お付き合いください。**（途中略）**

この智慧には、この知恵と、この智慧、よう見てください。おんなじ知恵やけど、違うでしょ。智慧には日（ひ）がついている。知恵には日がない。この日のないのは人の知恵、日のあるのを仏の智慧。この『日』は、太陽を表しとる漢字です。太陽は光です。つまり光は、いろんなところを照らすということなんです。真っ暗闇では見えんかったもんが、光が照らしたらここにあるのが分かると。今まで見えんかったもんが、真っ暗で見えんかったのが光で分かる、こんな形しとったんやと。例えばこの扇子なら、明るいから扇子やって分かる。真っ暗なら、扇子も何も分かりません。

つまり仏の智慧とは、そのことにおうた時に、今まで感じんかったことが、今まで見えんかったこと、今までこんなことも思うとらんかったことが、なるほどそうなのかと分かるのが、仏の智慧なんです。つまり人の知恵がそれに出会うて、そこから気付いた時に、ここに初めてその知恵が仏の智慧に変わる。

つまり知恵と智慧は、イコールなんです。気付け気付けと、実は言われとるがですよ、私たち、いろんなものから。そのことに、気付いていこうとしてない私がおる。気付きさえすれば全てが、それこそ知恵が智慧に変わる、仏の智慧。つまりここにわざわざ日を入れて、仏の智慧やと言うとるのは、見えてきて初めて気付くことが、そこにあるぞと。

（途中略）

この話（姥捨て山の話）にしても、そこにわが息子を思うていくその知恵が、そこにあるということ。この枝を折って母親のことを思うこの知恵を、詠んだ歌があります。こんな歌として残っております。古い歌、古歌でございます。お聞きください。

『奥山に　枝折るしおりは　誰がためぞ
親を捨てんと　急ぐ子のため』

この中に、親というもんが子を思う、とことん思うその思いが、表れております。ここにおる皆さま、私も含めてそこそこのお年になっております。子どもさんがおられる方も、お孫さんがおられる方もおる。だからこの、親が子を思う、そして孫を思う気持ちが、よう本当は分かっているやろうと。でも年取ると、忘れてしまうんですよ。自分が子やったことを。たとえ自分が、五十になって、六十になって、七十になって、九十になっても。そして親が生きていようが、亡くなっていようが、親は子を思い続けてるものなんです。

つまり今、自分が我が子に、この古歌のように私を捨てにいく。でもその子のために、枝を折るという、この気持ちがあるがです。あるからこそ、私もそう思われとるいうことを、きれいに忘れてしまっておる。私も子なんですよ。親が亡くなっておっても、子なんです。それを思った時に、自分が思うその思いは、私も思われているんや。だからこそいろんなことに、気付いて生きていかんならんのです。

この浄土真宗のお参りは、報恩感謝・報恩謝徳のお参りです。恩に報いる講と書きます。恩とは、何かしてくれたからありがとう、いいことしてくれた時ありがとうっていう恩でないです。この恩は、どこまでも思い続けてくれておるという、その思いです。報はそのことを、気付くということです。講は、集まってそのことを話すということです。それが報恩講でございます。

（途中略）

今こうやって、今まで見えんかったものが見えてくるようになる。そのためにわざわざ、人の知恵と仏の智慧に、日が付いておることになってる。漢字っていうのは素晴らしいもので、じっとその成り立ちを見ると本当の、その漢字の成り立ちというのは、いろんないわれがね。そりゃスマホとかいろんなのを見たり調べてみると意外に、なるほど、この漢字はそういうことなのかというのが、分かりますから面白いですよ。

話を元に戻します。この光が、どうぞ私たち、いろんなとこに気付け気付けと、おっしゃっているんです。南無阿弥陀仏という、六字の言葉があります。これを親鸞聖人は、もっとも大切なもの、本尊と言いました。本尊というのは、本当に尊いものという意味です。本当に尊いということ、それは何かというとそれは、今の気付けという、この思いなわけです。

南無というのは言葉を変えると、気付け気付けと言うてくれている、気付けということです。阿弥陀仏というのは、気付きましたという意味です。つまり南無気付け、阿弥陀仏気付きましたという、それが南無阿弥陀仏という言葉なのです。だから南無阿弥陀仏を唱えるから救われるとか、南無阿弥陀仏を唱えるから、何かがあるのじゃなくて、気付いて気付きましたというその心になった時に、いろんなものが救われたり、気付いたりできていくというもの。

だから、ありがとうと、ごめんなさいが、南無阿弥陀仏ですと言うた人がおります。そのとおりなんですよ。ありがとうと出てくる、その心が素晴らしい。ごめんなさいと言える、その心が素晴らしい。ありがとうという、言葉が素晴らしいんじゃない。いろんなものに会うことが難しと言うて、なるほど会うこと難しいのだから、ありがとうやと。それから、ごめんなさい。ごめんなさいというのも、謝っとるだけではないです。ごめんなさいの中には、ありがとうが入っているんです。ありがとうとごめんなさいは、ひとつの同じ言葉なんです。

手短かではあるんですけれども。こう言うてもなかなか、その知恵、それから思い、今の場合は親の思いですけども、親の思いだけじゃない、世の中全部思いがあって、私たちこうやってここに立っておるがです。

薬が飲めるのも、その薬をずっと長年研究して、ああ、俺の代では駄目やった。さあ、おまえ頼むぞと言われて、そしてまたそれを受け継いで、研究してきて、薬もできています。この電気も、今こうやってついておりますけれども、その昔エジソンという人が電気を発明して。でもそれが今まで送り送られて、技術が革新して、今こうやってなっておる。気持ちも、技術も、思いも、伝わって伝わって今ここに、私たちのここにおるがです。

（その後、続く……。）

法話の全文版を希望する方は、月参りの際かＦＡＸ
電話・メールで（表面）ご連絡ください。１冊差し上げます。